

飯豊の懐へ滑降！

## 飯豊山スキー ＜実川東大日沢 檜山沢大曲沢 大又沢大岩沢・本社ノ沢滑降＞

木下

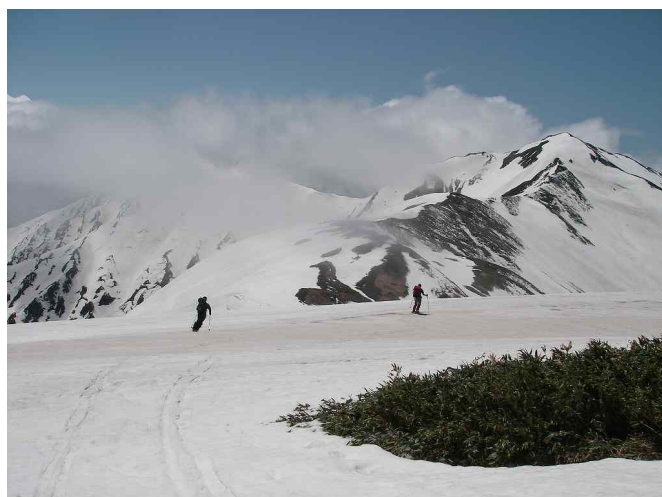
【日時】 2008年5月2日(金)～5日(月)

【メンバー】L木下 石井 田村

飯豊の溪谷の源流部はスキー向きの素晴らしい斜面が居並ぶ。今年はどこを滑ろうか。昨年のGWより、もっと「飯豊の懐へ！」メンバーであれこれ相談して今回のルートが出来上がった。好天と強力なメンバーのおかげでほぼ予定ルートをトレースでき、充実した山スキーとなった。

### 5/2 【晴】 入山、切合小屋へ

明け方近く、大日杉に到着。小屋で3時間ばかりの睡眠を取る。今年は雪が多く小屋からスキーをつけて出発した。ザング坂はスキーで登ったが、その先の尾根は雪がなく標高900m付近までスキーを担ぐ。ブナ林の中を喘ぎ喘ぎ登ると地蔵岳の肩、シュルンドを避けながらトラバースして種蒔山への尾根に出た。ここからは飯豊本山と滑降予定の本社ノ沢が大きく広がり素晴らしい。緩やかな尾根の彼方に小さく切合小屋が見え、思わず「遠いなあ・・・」。尾根上をゆるいアップダウンして行くと次第に小屋が近づいて来る、御沢に一旦滑って中間尾根を登りきって切合小屋に到着。大日杉からは、飯豊の中では楽なアプローチかと思うが初日はきつかった。それにしても今日の二人のペースはゆっくり・・・と思っていたら小屋に到着して



ザックを開けると大量のビールが、脱帽！ 小屋は我々だけの独占、近くで水を取ることもできる。夜にはガスとなり小雨も降るが、快適な一夜を過ごす。

### 5/3 【ガスのち快晴】 大日岳～東大日沢滑降

ガスの中、出発。草履塚まで緩登すると次第にガスが切れ青空が広がってくる。草履塚の下りと御秘所の岩場はトラージェンで通過し、御秘所沢源頭の

広々した斜面をシールで登り本山小屋に到着。明後日分の食料、燃料をデポする。

シールをはずして広大な稜線をトラバース気味に滑っていく。御西岳は登りになるがシ

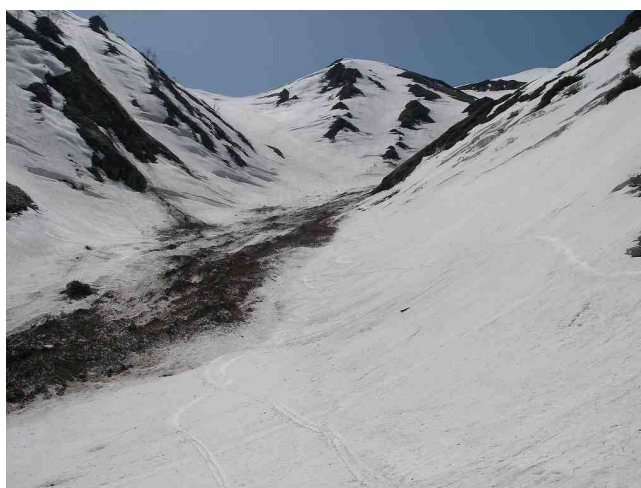


ールをつけずに登り切り、御西小屋へ。不要物を小屋にデポ、アタック装備で大日岳に向かう。文平ノ池まで一滑り、ここからは所々夏道が出ているのでトラージェンで登る。頂上直下は結構な急登となるが、元気な石井さんが先頭でステップを切っていく。連峰最高峰に到着。ここからの眺めは素晴らしく、特に飯豊川を巡る尾根、谷の切れ込みは凄みがある。飯豊川のゴルジュ帯は雪も付いておらず、側壁からは融雪水が滝となり、水音が風に乗

って聞こえてくる。一方、西大日岳から、また北股岳からのスロープは優美でスキー向きだ。

さあ待望の滑降！今回の目的のひとつ

「大日岳ピーク・スキー」記録を見ない実川支流・東大日沢にルートを取ってみた。ピークには雪がないので少し戻った頂稜より滑り込む、牛首山側に緩いスロープから回り込むと東大日沢のバーンが広がる、斜度は30度くらいであろうか。軟雪のフラットバーン3人思い思いのシュプールを刻む。二人の姿が「あっと」いう間に点のようになってしまう。途中、デブリ帯を通過して1350m支流から登り返すことにする。見た目よりも傾斜がありシール登高のぎりぎりのラインで登っていく。小さな尾根を乗り越し、御西沢に沿って斜登高して行く。ここも素晴らしい斜面が御西沢へ広がり、下部は大きなU字谷となって雪渓が続いている。



途中、斜度がきつくなり木下はアイゼンに履き替えたが、二人はシールで登りきり文平ノ池付近の稜線にでた。ここからはのんびりと稜線漫歩。御西小屋は木の香りのする新しい小屋、今日の宿泊も我々だけ、乾杯のビールが旨い！

途中、斜度がきつくなり木下はアイゼンに履き替えたが、二人はシールで登りきり文平ノ池付近の稜線にでた。ここからはのんびりと稜線漫歩。御西小屋は木の香りのする新しい小屋、今日の宿泊も我々だけ、乾杯のビールが旨い！

5/4 【快晴】 大曲沢滑降～秋田ノゾミ平～  
飯豊本山、大岩沢滑降



冷え込みもなく、良いコンディションである。小屋より広大な駒形沢源頭をトラバースし、



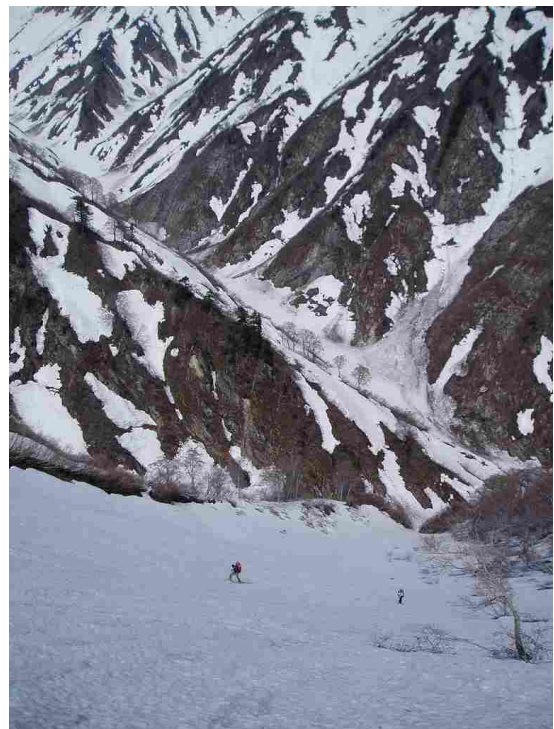
天狗尾根1900mに出ると大曲沢の素晴らしい斜面が眼下に広がった。駒形沢は広く緩やかな尾根に囲まれた「源流」といった感じだが、大曲沢は20度程の広大な一枚バーン、絶好の斜面である、この景色に朝から大休止を取ってしまった。

さあ、滑降。もちろんノントラック、絶好のザラメ雪にスキーを走らせた。振り返ると真っ青な空と白い斜面、3本のシュプール、かすかな風の音。

大曲沢は出合で大きく屈曲している、両岸

も立ってきているので雪割れを心配しつつ行くが問題なく本流に出た。さすがに本流はゴルジュが深く、側壁から融雪水が滝となって落ち、迫力がある。びっしりと雪渓に埋まっているので楽に本カゴノ沢に入れるかと思っていたが、出合が割れ、雪解け水が沸き立っている。「あれに落ちたら二度と出てこないだろうな」と思うと緊張が高まる。少し尾根に登ったところから上部へ斜滑降！さくっと、先陣を切るのは石井さんである。

本カゴノ沢は両岸高く、ブロックが所々引っかかっている様子なので右岸から入る枝沢より直接、秋田ノゾミ平に向かう。なかなかの急登、シールで登るが最後はツボ足に変えて秋田ノゾミ平の一角に詰め上げた。ここは不思議なところ、やや傾斜のある広い雪原が続いている。強い風が吹き出し、のんびりとしていられず、ダイクラ尾根に向かって登る。快調な石井、田村さんは良いピッチで登っていってしまうが、まだ先が長いのでマイペースを守らしてもらおう（お待たせしました）。疲れが出てきたとき的一本、石井さんの雪&カルピスは元気が出ます。（うれしいですね）



もうひとがんばり、ダイクラ尾根の急登を登り、本山頂上へ。ピークハンターの田村さんも満足の様子、今回初めて他パーティ（水晶尾根からのこと、新潟地元のパーティ）に出会い、会話も弾む。

のんびりと本山小屋へ、今日は管理人も入り、2日前とは違いにぎやかである。身軽になってもう一本！大岩沢へ。本山との中間地点より滑り込む、ここも最初は緩斜面のスロープだがすぐに30度強の楽しい斜面が谷底まで続いている。どこまでも行けそうであ

るが田村さんと木下は1800m、石井さんは1600m付近まで滑って登り返す。小屋に戻って打ち合わせ、明日の天気は下り坂の様子、ビンカガグチ沢の滑降をカットして視界の良いうちにメインの本社ノ沢に向うことにする。となれば最終日、ビール、



ウイスキー、食料と軽量化とは思えない豊かな夕餉となった。

**5/5 【曇り】** 本社ノ沢滑降、大日杉へ小屋のギャラリーに見送られて、本社ノ沢に滑り込む。今日は日も差さず思ったより雪面が硬い、やはり緩やかなスロープから30度強の大斜面が広がる。雪が硬いので今回一番の緊張、転倒すれば容易には止まらないであろう。しかしこの大きなバーンを楽しまずにはいられない、滑り応えのある1本であった。二俣は上部からのブロック散

在しておりその間を縫うように滑り降りると、再びフラットな雪面となって大又沢本流に出る。本流も大量の雪で埋まっているので何もなく登り返しかと思ったが、少し上流で釜が顔を出しており慎重に左岸にステップを切って通過する。

すぐ上流の支流に入りシール登高。辺りは良きブナ林、登りやすい斜面で順調に地蔵岳の肩に到着。昨日同宿のパーティからもらったビールで乾杯、飯豊本山に別れを告げて最後の滑降に入る。地蔵岳のトラバースはシュルンドに少々手を焼いて通過、後はブナの木を交しながら尾根を滑る。次第に濃くなるブナの新緑に目を和ませながら標高900mまでスキーで下り、タムシバの白、ミツバツツジジのピンク、足元のイワウチワの花に目を楽しませながら下山。入山の時よりもずいぶんと減った雪と新緑の濃さに驚きながらフィナーレ。



下山後、飯豊の山麓をドライブしながら山菜取り。フキノトウ、タラノメ、コシアブラ、ユゴミ、ウドと収穫して大石ダムサイトへ、山菜料理で打ち上げ！ 良い東屋があり、降り出した強い雨も関係なくテンプラとコシアブラご飯、ウドの一本煮と春の飯豊を満喫した。

飯豊の山スキーはいたるところで大斜面があり、また深く刻まれた谷がありプリミティブなスキーを楽しめる、何よりシュプールがほとんどないのが素晴らしい。今後は北部を探ってみましょうか・・・メンバーのお二人に多謝。

- 【行程】 5/2 大日杉 (8:50) - 地藏岳肩 (12:35) - 切合小屋C1 (15:50)
- 5/3 C1 (6:50) - 草履塚 (7:25) - 本山小屋 (9:00-45) - 御西小屋 (10:35-11:15) - 大日岳 (12:45-13:00) - 東大日沢1350m (13:30) - 文平ノ池稜線 (15:35) - 御西小屋C2 (16:10)
- 5/4 C2 (6:42) - 天狗尾根1900m (7:00-20) - 本カゴノ沢出合 (7:50) - 秋田ノゾミ平 (9:00-20) - 飯豊本山 (12:35-50) - 本山小屋 (13:15-50) - 大岩沢1800m (14:05) - 本山小屋C3 (15:30)
- 5/5 C3 (6:50) - 本社ノ沢二俣 (7:15) - 大又沢 (7:30) - 地藏岳肩 (8:50) - 大日杉 (10:50) 終了

【地図】 大日岳 飯豊山 岩倉

